

難波極子著「社会のマナーを教えるのは…」産経新聞〈談話室〉2014 年 7 月 8 日朝刊を読む

社会のマナーを教えるのは…

1. 最近足腰も弱り、買い物や通院の際は、手押し車が欠かせない。
2. 先日、娘と外出すると、小学 3、4 年生くらいの児童と先生の集団に出会った。校外学習らしく手にノートを持っていたが、子供たちはよそみをしたり、後ろ向きになったりして雑然と歩いていた。集団の後ろの方に若い男の先生がいたが、「並んで歩きなさい」と注意もしないし、周囲を歩く人たちに気を使うそぶりもない。
3. うっかり子供とぶつかり、転倒してけがでもしたら大変だ。「危ないで」と娘に言われ、仕方なく児童らが通り過ぎるまで、その場で立ち止まっていた。
4. 一方、近くにある大手学習塾では、送迎バスを待つ間、子供たちを歩道の片側に並ばせ、通行人の邪魔にならないよう「ちゃんとしなさい」と注意している。
5. 学校では教えない社会のルールやマナーを、塾ではきちんと教えているということだろうか。

[コメント]

学校教育で不足している教育を補うのが学習塾。そう考えれば、社会のマナーを教えることは学習塾として当然かもしれない。ただ、「マナー教育」は、学校や学習塾などに全く関係なく教育に携わる人が目の前にいる教え子すべてに行うものと私は考える。

— 2014 年 7 月 8 日 林 明夫記 —